

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200369		
法人名	社会福祉法人 すばる		
事業所名	さくらグループホーム		
所在地	宮城県柴田郡大河原町金ヶ瀬字白坂27番地		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0472200369&SCD=320&PCD=04
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人との関わり、人と街の関わり、人と自然との関わりを大切にしながら、地域の中でその人がその人らしく生活できるグループホームを目指している。以前の生活をしながら、グループホームでも同じように生活していけるようにしている。目の前の利用者さんの一瞬一瞬の想いに寄り添いながら、共に在ることを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は日々の支援等から運営課題を立てステップアップへの取り組みを進めている。中でも、地域との関係作りでは運営推進会議メンバーや地域住民が参加した「認知症学習会」「特養ホーム視察研修」を開催し、運営推進会議では地域で守る災害対策の検討など、施設運営や利用者を守ることへの議論がされている。具体的な対策もメンバーから出されている。また地域行事への参加や事業所行事等で地域の人との参加交流が広がっている。職員は自らが掲げたチーム理念「笑顔・安心・自由」を実践に活かした支援を行い、利用者の思いに寄り添い楽しく穏やかな生活がうかがえた。この背景には職員が法人の理念や人材育成方針等を受止め、質の高い介護を目指して取組まれている事がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 さくらグループホーム ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人がその人らしく生活でき」を事業所の理念に掲げ、実践している。また、チーム理念をスタッフで掲げ、実践している。	10月、事業所理念を更に実践に活かすことをめざし、職員が自分で受けたいと思う支援について検討し、チーム理念「笑顔、安心、自由」を掲げ、より利用者に寄り添う介護に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームも地域住民として、町内清掃や地域防災訓練等の行事に参加している。また、事業所が企画した行事に地域住民を招待し、地域との交流を図っている。	町内会に加入している。今年は地域防災訓練や社協のふれあいサロン等地域行事にも積極的に参加した。これらの取組みからホームの行事にも地域からの参加者も増え、地域と利用者や事業所との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施と、報告を行っている。地域包括支援センターの職員に参加して頂き、更なるサービスの向上の為の意見を頂戴している。	年6回奇数月に開催している。5月「認知症学習会」、7月法人運営の「施設見学」など、形式的な会議に終わることなく、メンバーからの要望も取り入れた会議を開催している。区長、民生委員、幼稚園園長等地域の人材の他、町の職員や地域包括職員も参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、参加して頂いている。防災訓練にも参加して頂き、助言を頂いている。	今年、地域包括からの依頼で「認知症サポーター研修」修了者の体験研修を受入れ、外部評価に町の職員が同席するなど、昨年より行政や地域包括との関係が深まっていることがうかがえた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束をしないケアをしている。	日中の玄関や勝手口、隣接の通所施設との連絡通路等に施錠はしていない。外出傾向をつかみ利用者には見守りや同行をするなどの支援をしている。毎年、身体拘束や虐待防止の勉強会を隣接の通所事業所と合同で開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、虐待についての理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、権利擁護の制度の周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改正時、契約の内容変更時に説明を行い、十分に理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をし、周知に努めている。また、家族会を開催し、意見を出しやすい環境作りを行っている。事業所・公的機関の相談・苦情受付体制について重要説明事項に明記している。また、地域の元評議委員の古山弘様に第三者委員を依頼している。	玄関に意見箱が設置されている。利用者、家族とは、家族会や運営推進会議や訪問時面談、電話、アンケート等から意見をもらい、運営に反映している。出された意見は全て記録に残している。昨年のステップアップとした第三者委員の委嘱も完了した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回開かれるミーティングや、管理者との個別面談を通して意見を聴く機会を設けている。日頃も、話し合える環境作りを努めている。	事業所は月1回職員ミーティングの開催や年2回個人面談を行い、自由な意見交流と運営課題の共有化の場としている。また、法人の他事業所との交流を行い職場体験を通じ、自分や職場を見直す取組みも進めている。新人に配慮したエリア別フォローアップ研修も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価基準書を使用し、自己評価をしてから上司が評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への案内を職員へ知らせ、研修会へ参加できるように配慮している。内外ともに研修会や勉強会に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で認知症ケア勉強会を2ヶ月に1回行っており、内外ともに参加でき、交流する機会を持っている。また、外部の研修会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様との面談を行い、想いや考えを理解し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも、面談をし、希望や想いを聞くようにし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の関しての相談があった時には、現状をお聴きし状況に応じて必要なサービスのアドバイスを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の声を形にしていけるよう、よく話しをし、外出の機会を作っている。また、個別でのケアを通し、信頼関係の構築を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	記録の開示等を通し、ご家族様に利用者様の日々の様子をお伝えしながら、共に支えていけるように努力している。面会やご家族様と外出を出来るように、信頼関係の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの温泉や、店への外出をしている。また、友人との交流の機会を持っている。	今まで歩いて行けた店が閉店になり車で買い物に出掛けている。温泉では職員と一緒に入浴を楽しんでいる。隣接の通所施設に遊びに行き、そこで知り合った人がホームに遊びに来ることもある。	地域住民と利用者の交流が深まり、地域住民が、馴染みの人となりつつある。この関係が途切れないよう、地域住民がホームを気軽に訪れ、利用者との交流を図るための支援を検討し実施することを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉を交わせない方も、スタッフが間に入り、関わりを持っているように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活習慣等をお伝えし、生活に不自由がないように配慮している。また、契約終了後も、気軽に立ち寄れるように、夏祭りのお誘いや、相談などにも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の想いを聴き、行っている。話せない方は、生活歴やご家族様からの話しをお聴きし、情報収集し、趣味・嗜好を継続できるようにしている。	思いがうまく伝えられない人や話せない人には、本人の生活歴や家族の情報を参考に、毎日一人ひとりの1時間単位の生活記録を参考に支援をしている。新しく入居する人は、センター方式を活用し、事前に家族から情報を得て支援を行っている。状況の変化等があれば都度変えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様より馴染みの物や、生活環境をお聴きして、馴染みの暮らしが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1人1人の状態の把握をし、出来ることは、自分から出来るような環境設定をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人の想いを聴き、主治医の意見書も参考にしながら介護計画書を作成している。月に1回もモニタリングを行い、3ヶ月毎にプランの見直しを行っている。	本人、家族の意向や主治医の所見等から3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い介護計画書を作成している。月1回全職員でモニタリングをし支援の共有化を図っている。介護計画書作成には課題検討用紙を活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその方の記録をし、カンファレンスに活かしたり、ご本人の意思や希望をプランに反映しやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域資源や行事、他方に目を向け、ニーズに合った行事などに参加している。買い物にも、自由に行けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や広報・区長さんから等から地域の行事を知らせて頂き、参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診が出来る。医療が必要な場合は、適宜相談をしている。緊急時などの急な時の連絡体制・往診体制を整えている。	法人系列の医院がバックアップしている。かかりつけ医受診には家族が付き添うが、バイタル表等の情報を提供し、受診結果の報告をもらっている。緊急時の往診や歯科往診の体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスセンターの看護師に医療連携をとってもらい、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の交換ができるように相談や、カンファレンスをして頂くよう話しをしている。入院した際には、情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについて、書面を用いてご本人や家族に説明を行い、同意を得ている。意思確認をしながら、出来るだけ希望に添えるように方針を立てている。	看取りの経験はある。重度化や終末期の支援は、看取り指針に詳細に示めている。本人に寄り添いや家族の寂しさを共にする支援をしている。利用者からは皆に看取ってもらえる安心感があるとの声が聞かれた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会に参加し、急変時や事故発生時への対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の職員行動マニュアルを作成し地域住民参加による避難訓練を年2回実施を計画している。また、非常食・備品の準備・点検を行っている。	本年、非常災害等の行動指針を隣接の通所事業所と共同して作成した。防災委員会を設置し、震度5以上を想定した緊急連絡体制や避難手順、安否確認等の手順を作成し、指針に基づく避難訓練を地域住民も加わり実施した。3人の区長には緊急連絡通報装置を設置してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重し、できるだけ意思決定ができるように支援している。	人格尊重に徹した支援をしている。呼び名は本人の希望で呼んでいる。利用者によっては学生や職場時代の呼び名を希望する人もいる。排泄支援はさりげなく行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話しをよく聴き、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聴いて、その方のペースで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や散髪等、ご自分の想いでされている方がいる。また、自分らしく身だしなみが整えられるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな物や季節の物を取り入れながら、献立作成をしている。また、定期的に栄養士の助言・指導を受けている。ご本人の出来る力を活かして準備・片付けをしていただいている。	職員が介助もしながら一緒に食事をしている。調理や下膳に利用者も関わっている。献立は法人の栄養士の助言指導で作られ、とろみ食、きざみ食の対応もしている。誕生会メニューや行事食メニューなども提供している。外出の場合は、外出先でみんなで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作り、食事を提供している。食事摂取量や水分量もチェックし、理想的なかたちで摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促したり、状態に応じてご本人に合った、口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様1人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握している。全介助の方もトイレで排泄出来るように支援している。トイレに座る習慣を持つことで、トイレでの排尿が見られるようになっている。	排泄パターンを把握し排泄支援している。声掛けなどで日中は全員トイレを使用している。夜間も基本はトイレを使用している。全介助の利用者にも立上がる訓練をつづけ、トイレ使用が出来るようになった。全員での外出時は、目的地でのトイレ状況も下調べして出掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多く含まれる食べ物や内服薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間浴をしたり、毎日入れるように体制を作っている。	利用者の希望に合わせた入浴の支援を行っている。拒否する人には職員や家族の声掛けなどで入浴した事例もある。夏場、重度の利用者には、隣接通所事業所の機械浴を利用していたが、寒い期間は職員2人でホームの浴室で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に聴きながら、日中の静養や就寝時間を聞いて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧を作成し、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好みや、嗜好を聴きながら献立を作成したり、外食・外出をしている。以前の役割等をご本人・ご家族から聴き、行える環境を整えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、戸外へいつでも行けるように努めている。墓参りなどの特別な場所への外出にも柔軟に対応している。家族とも自由に出かけられるように努めている。	外出の支援は散歩、買い物や家族との外出など適宜柔軟に対応をしている。急な外出も、要望を優先した対応をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際には、ご本人による支払いが出来るように配慮している。ご本人の希望により、お金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から、ご家族様や友人に電話を掛けたり、手紙を書いたり、希望に応じた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある設えを心掛けている。また、照明や室温調節等にも配慮をし、安心して暮らせるように配慮している。	食堂を兼ねたホールは、天窗のある吹き抜けやベランダで自然採光に配慮したスペースである。ホールには利用者が書いた書画や季節感や見当識を保つために日めくりも飾ってある。利用者の殆どは、日中ホールに集い、TVや語らいなどを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースを広く使い空間を区切ることで、思い思いの時間を過ごせる居場所作りに努めている。状況に応じて、変更できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用していた家具や馴染みの物を持参して頂いている。また、ご家族様にも、相談しながら居室の環境を考えている。	部屋は押入れ等収納スペースを完備しており、十分な広さが確保されている。照明は眩しさに配慮し輝度を和らげ、温・湿度管理等に配慮している。部屋には座卓、整理筆筒や仏壇などが持込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前に目印を置き分かりやすくしたり、段差のない床にしている。		